

丸山敬一教授・略歴と業績

略歴

- 1938年 9月 長野県伊那市生
1966年 3月 京都大学法学部卒業
1976年 3月 大阪市立大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
4月 中京大学法学部助教授
1981年 4月 教授
1987年 4月 法学部長（2年間）
1991年 6月 法学博士（大阪市立大学）
2001年 4月 法学研究科長（2年間）
2009年 3月 定年退職

業績

単著

- 『マルクス主義と民族自決権』（信山社，1989）
『政治学原論』（有信堂，1993）
『民族自決権の意義と限界』（有信堂，2003）

単編著

- 『民族問題 現代のアボリア』（ナカニシヤ出版，1997）

共著

- 『政治思想・歴史と現代』（法律文化社，1975）
『ロック市民政府論入門』（有斐閣新書，1978）
『基本マスター政治学』（法学書院，1980）
『政治学と現代世界』（御茶の水書房，1983）
『統合と抵抗の政治学』（有斐閣，1985）
『現代世界と政治』（世界思想社，1988）
『現代の法と政治』（中京大学法学部，1988）

『マルクス・カテゴリー事典』(青木書店, 1998)

翻訳書

『非政治的人間の政治責任』(共訳, 福村出版, 1972)

『マルクス主義と民族問題』(福村出版, 1974)

『ローザ・ルクセンブルク論集』(共訳, 河出書房新社, 1978)

『ロシア革命論』(共訳, 論創社, 1985)

『組織された資本主義』(共訳, 名古屋大学出版会, 1989)

『ローザ・ルクセンブルクと現代世界』(共訳, 社会評論社, 1994)

『民族問題と社会民主主義』(共訳, 御茶の水書房, 2001)

論文

「ローザ・ルクセンブルクと民族問題 トルコ問題を中心として」(法学雑誌19 - 2, 1972)

「ローザ・ルクセンブルクとポーランド問題 ローザ民族理論の問題点」(法学雑誌21 - 1, 1974)

「ソ連の対外侵攻の理論的根源」(現代の眼, 1980年4月号)

「スターリン民族理論の特質 レーニンとの対比において」(中京法学15 - 1, 1980)

「民族の自決権とプロレタリアートの自決権 プロレタリア・インターナショナルイズムはいかにして可能か」(国家論研究20号, 1981)

「マルクス, エンゲルスと民族自決権」(法学雑誌30 - 3・4, 1984)

「民族自決権をめぐるレーニンとルクセンブルク」(中京法学19 - 4, 1985)

「スターリン『マルクス主義と民族問題』の理論的価値について」(中京法学21 - 3・4, 1987)

「自決か自治か 比較民族理論への一試論」(社会思想史学会年報・社会思想史研究13号, 1989)

「民族自決権は万能か 日本共産党の民族自決権理解に対するひとつの批判」(フォーラム90S, 1991年6月号)

- 「民族自決権の意義と限界」(中京法学26 - 1, 1991)
- 「マルクス主義における『民族』の将来像」(年報政治学, 岩波書店, 1994)
- 「マルクス主義者はなぜ民族問題を解決できなかったのか」(月刊フォーラム, 1995年1月号)
- 「邦語文献目録にみるローザ研究の現状」(中京大学図書館学紀要16号, 1995)
- 「民族本質論と民族政策論 上条氏の近著によせて」(中京法学30 - 1, 1995)
- 「社会主義は『科学』か 科学的社会主義論批判」(中京法学30 - 4, 1996)
- 「民族と階級に関する一考察」(中京法学35 - 1・2, 2000)
- 「O・バウアー『民族問題と社会民主主義』をめぐって」(中京法学37 - 1・2, 2002)
- 「マルクス主義とは何だったのか」(立命館大学・政策科学11 - 3, 2004)